地域系部活動設置促進事業

島根県立 津和野高等学校

自分たちで課題を発見し、企画を立て実践する

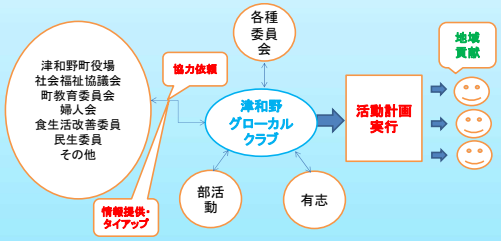
津和野グローカルクラブ

学校概要

■高等女学校、旧制中学校からの流れをくむ歴史をもつ伝統校。
■津和野に学ぶ、津和野を創る、津和野に生きる、を教育方針に掲げる。
■平成23年度より**離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業**に取り組む。

活動体制

■平成25年10月、TOEFL国際地域交流クラブとして活動を開始。
■平成26年9月、津和野グローカルクラブとして活動を継続。毎週水曜日の放課後を中心に活動。
■英語コミュニケーションに興味がある生徒を核に、既存の委員会や生徒有志を巻き込み活動。
■生徒会のボランティア活動とも連動。



平成26年度の活動概要

■高校生による津和野まちあるきツアー・ガイドの企画・実施。
■地元食材を活かした料理教室の企画、山菜を活かした食事の提案、独り暮らしの高齢者訪問、鷺舞の継承を展開。地域とつながり、地域に育まれていることを自覚し、地域の課題をとらえ、地元貢献を目指す。

【主な活動】
■名賀地区でのお田植祭（5月）への参加、英会話教室の開催（9月）、名賀地区での抜穂祭への参加（9月）、地元の食材を利用した料理教室（10月）。
■高校生による津和野まちあるきツアー・ガイドの企画、実施（12月～）。
■東日本大震災被災地（気仙沼）のまちづくりにも学ぶ。

平成26年度の活動の様子

鷺舞の継承
（平成25年度のとりくみ）

名賀地区お田植祭（平成26年5月）

名賀地区抜穂祭
（平成26年9月）

地元の方を招いた料理教室。授業と連動
（平成26年11月）

高校生による津和野ツアーガイド
（平成26年12月）

平成26年度を振り返って

■生徒から「伝統の重みを感じた」「ふるさと津和野の魅力をいつまでも忘れないでほしい」との声。一方、地域から「住民も学校に入ってできることがある」との声も。
■クラブの核となる1年生のメンバーが参画。生徒自らが地域をフィールドに活動していく体制が整いつつあり、活動の着実な定着・発展が期待される。
■大人の発想やアイデアの押し付けではなく、高校生の自発的な発想を大切にし、生徒の意欲に火をつけることを模索。

平成27年度の計画・方針

■1年目同様、国際交流分野と地域交流分野の2分野で活動
「地域交流の中で、課題をとらえ、アクションをおこす」
(国際) 英語コミュニケーション練習
外国人観光客ガイドの企画・実施
(地域) 地元食材を活かした商品開発の企画、
大人と協同の地域イベントの企画、実施

【主な活動】
■国際交流活動　英会話トレーニング　英語ガイド文作成
■地域交流活動　4月　流鏑馬神事
5月　稲成神社　お田植え祭
6月　ほたる祭り
9月　稲成神社　抜穂祭
■高校生による企画　4月　THEお花見
7月　復興祭　つわのあかり

平成27年度の活動～発展～

■問題意識をカタチにする企画へ
・グローカルクラブの生徒が中心となり、それぞれの問題意識から企画を考える。
・4月には高校生と地域住民が交流するイベント「THEお花見」を企画し、7月には水害のメモリアルイベント「つわのあかり」を地域住民と一緒に企画した。

4月　THE お花見

7月　復興際「つわのあかり」

■年間地域交流
・毎月1度地域の行事に参加する機会を提供している。
・全生徒を対象とし、地域に関心を持つ機会となるよう、参加しやすく楽しめる行事への参加を実施している。

4月　流鏑馬神事

5月　稲成神社　田植え祭

6月　ほたる祭り

部員の想い

■去年からグローカルクラブに所属して活動していますが、このクラブで活動する中で、たくさんの方と会う機会がありました。
■自分から行動を起こして自分の周りや町を変えてきている方々とも会いました。
■そんな方々に会い、私も自分から行動を起こして学校を変えていきたいと考えるようになりました。
■そこで私は、一人ひとりが自分自身を前に出せるような学校にしたいと考えています。
■そして、それぞれが自分の強みや得意とすることを活かして、私たち生徒がこの津和野高校を作っていけるようにしたいと思います。

～生徒会長立候補演説より抜粋～

指導者の想い

■**課題を自分事に**
地域交流活動を実施する中で、大人との交流などの「人とのつながり」から地域の課題を他人事とせず、自分事として地域に対して何ができるかを考え始めている。社会に関心を持ち、社会に貢献したいという意識を持ち始め、自然と当事者意識の芽生えを感じている。

■**アクションを恐れない**
発見した課題に対し、自分たちのアイデアを実践したいと考えるようになった。
アクションを起こす際には、上手に追い込み、課題を整理してあげると、何度か企画を経て自信を持ち、失敗を恐れず積極的にアクションするようになった。
生徒のノビシロは大きく、まだまだ成長していく余地があると感じている。

地域系部活動の促進に向けて　keyword：主体性・波及性・継続性

①主体性…グローカルクラブで活動した生徒が今年度の生徒会の中心となり、学校運営に大きく貢献している。地域と交流を進める中で、地域課題を発見し、「課題解決のアクションを起こしたい」「地域に貢献したい」という社会貢献意識が育まれていった。また学校の外で活動する中で挫折や失敗を多く味わい、壁を乗り越えるタフさやさらには仲間とともにつくりあげるコラボカや協調性も育ってきている。
②波及性…実際に自分たちでアクションを起こし、変革する良いお手本グループとして、学校の中でも存在感を放ちつつある。
③継続性…地域系部活動の更なる展開として、単独の部活動への格上げや、部活動週一日定休日制の導入などを検討し、地域への活動に取り組みやすい環境づくりを整備し、他の生徒への更なる波及させるべく発展させていきたい。地域と交流させる際には、毎回引率に関する問題があり、車同乗や職員の引率許可など引率ルールをもう一度見直す事が必要である。